

## 第 14 回 IR 推進会議を傍聴する

都合がつくかぎり、関心のあるテーマの会議を傍聴することになっている。オンラインや議事録では得られない「やり取り」などから、重要な情報が得られるからだ。

昨日 31 日 10 時から谷町のホテルで開催された IR 推進会議を傍聴した。昨年 3 月 1 日に続いて 2 回目だ。早めに行って「1 番」だった。業者らしい人も傍聴に来ていた。議事は「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」(案)について。まず事務局が概要版を 15 分で説明した。1 月 7 日の IR 説明会では 60 分近く説明して、質疑の時間が少なく、残念ながら発言できなかった。

委員からの発言は腹が立つことも多かったが、大阪 IR カジノの問題点を探るうえで参考になった。印象に残った発言のいくつかを紹介したい。

- ・ 1 社しか応募しなかったこともあり、事業者撤退に向けて今から準備すべき。
- ・ 土壌問題など夢洲特有の課題があるが、コスト面だけでなく、中長期的には「投資」と考えるべきだ。リスクに見合うメリットを意識して計画を。
- ・ IR 施設は防災拠点になる。ホテルなどを活用して防災拠点として位置づける。
- ・ 青少年の健全育成にとって、カジノ以外の施設の対策をどうするか。情報発信が大切。
- ・ 経済界からの委員からは、地域を代表する 20 社が推進体制に加わったことは評価できる。2029 年開業でも遅いのに、さらに 1~3 年も遅れると経済効果も望めなくなる。万博と IR の建設事業の調整が大切だ。
- ・ 委員長からは IR は大阪の成長に寄与でき、オール関西で観光などに力を入れていく。災害対策を重視したいなどと。

3 点だけコメントしておく。事業者撤退に関する意見について。こうした意見が出てくることは、IR カジノの行方として示唆に富む。計画案でも財務状況が悪化した場合の措置など書かれているが、IR カジノに対して楽観的な見通しが目立つ。これに関連して、パブリックコメントでも指摘したが、大阪府・市が市民の要求を受けて事業から撤退する場合の指摘が計画案にはない。「片務契約」ではないか。そのリスクについても明確にすべきである。

第 2 に、夢洲特有の課題について。夢洲の土地対策は「投資」だと言うが、そもそも夢洲は巨額のコストに見合う土地なのか。専門家も指摘するように、夢洲は IR 施設のような高層建築物などを想定していない埋立地である。当初から「夢洲ありき」で開発を進めており、議論が逆さになっている。

第 3 に、夢洲や IR 施設を防災拠点にすることについて。夢洲滞在者らの安全を確保するのは当然だが、夢洲という土地について理解したうえでの発言なのか。南海トラフ巨大地震などが来れば、真っ先に被害が想定されるのが夢洲だ。わざわざ夢洲のホテルに避難しに行くのか。夢洲の IR 施設が防災拠点になるとは、到底思えない。

(2022 年 2 月 1 日)